

第10回 能美市タウンミーティング

平成29年8月2日（水）19:30～22:00

大成町公民館

【司会】

ただいまから浜小学校中筋地区のタウンミーティングを始めさせていただきます。

まず初めに、ご参加の皆様を代表しまして、浜開発町町内会長様にご挨拶をいただきたいと思います。

【浜開発町町内会長】

きょうは本当に大変暑い中、そして仕事でお疲れのところ、こんなに大勢の方にお集まりいただきありがとうございます。

きょうは、市長と直接皆さんが話せる貴重な時間なので、私の挨拶はこれで終わりたいと思います。よろしくお願いします。

【司会】

ありがとうございました。次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

日中のお疲れのところ、こんなにたくさんお集まりいただきましてありがとうございます。

タウンミーティングを始めて、きょうが第10回目ということで節目のタイミングです。浜小学校校下6町内会の皆様にお集まりをいただきました。本当にありがとうございます。

これまで本当にたくさんのご質問、ご意見、ご要望をいただいている中、今回は今までになかったご要望もたくさんいただいております、これもこの土地の置かれた環境なのかなということを改めて思っていますし、いろいろと勉強もさせていただきました。

冒頭、私から少し、能美市が今どんなことを考えているのかということをお述べていただき、その後にタウンミーティングということで皆さんと意見交換を始めさせていただきますと思います。

まず、能美市の人口ですけれども、8月1日現在5万52人ということで5万人を今超えています。昨年の10月に5万人を超えたということでセレモニーまでしたのですが、その後4万9,900人台が続いてきました。7月に入り7月6日が大安、この日に出生届がたくさん出て、7月7日、七夕の日にも婚姻届がたくさん出されて、（人口が）伸びたというこ

とです。市でもいろいろ人口増加対策をやっていますが、毎日、七夕だったらもっとふえているのではないかと考えています。今5万52人ということで、さらにこの勢いを続けていきたいと思っています。

何で人口がふえているのかという背景ですが、一つは移住される方がたくさんいらっしゃるということです。もう一つはお亡くなりになられた方よりも生まれた方のほうが、この7月は10人多かった。このあたり、どうしてたくさん子供さんが生まれたのかということもしっかり分析をして、また伸ばしていきたいなと思っています。

このタウンミーティング、選挙期間中から、当選させていただいたらやりますよ、というお話をしていました。私の政治信条である「現地現場主義」「市民ファースト」を進めていくために、皆さんとの意見交換を礎にしてやっていきたいということで、このタウンミーティングを開催させていただいています。

人口減少ということで、これは能美市だけの問題ではありません。石川県、日本全体がこの人口減少問題を抱えています。

今ほど5万52人と申し上げましたが、2040年には4万7,319人になってしまうだろうと言われていています。そこまで落ち込むのを何とか避けたい、今の規模を何とか維持したいという思いがあり、4万8,800人を目指しています。

人口が減るだけではなくて、高齢化率、65歳以上が全人口に占める割合も、現在は25%ですが、2040年には32%になってしまうという状況であります。これをできるだけ緩和していきたいという思いがあります。

能美市の魅力を発掘、発信させていきたいと、そんな思いがあります。発掘、発信によってどんなことが生まれてくるのかということですが、一つは移住・定住の促進です。能美市の魅力を能美市の人たちにもう一回再認識していただいて、ずっとここに住んでいたいなと思ってもらうようにする。それから能美市以外の方に能美市の魅力を発信して能美市に移り住んでもらうようにしていきたいということです。

それから、ここにずっと住む、それから移り住んでもらうためには働く場所がないといけません。企業誘致、それから地場産業の振興を図っていく。それは働く場の創出だけではなく財源の確保にもつながります。やはり市民サービスを維持、さらに向上させていくためには財源がないとそれを推し進めていけません。そのために企業誘致、地場産業を振興していくということです。

それから、ふるさと愛の醸成というのは、具体的に言えば浜小学校の子供たちが、能美

市っていいところだな、ずっとここに住んでいたい、東京の大学に行って、東京の会社に勤めたいなど思っても、やっぱり能美市がいい、帰ってきたいなど思ってもらえるように、今のうちからふるさと愛の醸成をしておきたいと思っています。

それは、例えば能美市は自然景観がすばらしい、あとは食べ物がおいしいなどそういうことだけではなく、高校生まで医療費が無料であるということ、これはこの石川県内ほとんどの市町がしていますが、東京に行くとそういう事例は少ないです。それから、電気代が日本一安いといった、いわゆる生活がこの能美市では大変安価にできるということも子供のうちからしっかりと伝えていきたいと思っています。

ただ、そうは言うものの、能美市は、例えば住みよさランキングに4年連続トップテン入りしていますが、知名度は大変低いです。魅力度、認知度といった数値ですが400番台だったり600番台だったりします。加えて我々は「のみし」って、当たり前のように読めますが、首都圏の人にこの漢字だけ見ていただくと「のうみし」と言われてしまいます。

それで、やはり魅力度や認知度を上げていかないと、なかなか移住や企業誘致も進まないのではないかとということで、ポスターをつくりました。

このポスターをつくった方は、藤田誠さんです。大成町ご出身のアートディレクター、アサヒビールのCMをつくった方です。そして、梅佳代さんといって能登町出身で人物を撮ったら今5本の指に入るのではないかとされるぐらいの写真家の方につくってもらいました。

能美市の魅力を県内外に発信したい、能美市の魅力って何だろうということで藤田さんと梅佳代さんが考えたのは、能美市というのは子育て環境がすばらしい、子供たちの笑顔ではないかとということで、辰口中央小学校に2人に行っていていただいて撮った写真です。それをポスターにして、東京駅や京都駅、大阪駅、そして中日本高速道路のサービスエリアに張りました。ポスターにはQRコードが張ってあり、携帯電話をかざしてそれを読み込むと能美市のホームページに飛ぶようになっています。今、能美市のホームページのアクセス数がぐんと伸びています。

それから、ビデオもつくりました。n o m iチャンネルで1時間に1回放映していますし、能美市のホームページにアクセスすると見られるようになっていまして、大変好評をいただいています。

皆さんもいろんな能美市の魅力をそれぞれお感じになっていらっしゃると思います。私を感じている魅力を紹介させていただきます。

まずは、子育て環境が素晴らしいということです。合併前に21の保育園がありました。今15になりました。近くにも大成保育園があります。本当に立派な保育園で、多くの子育てをするお母さん方、お父さん方から、能美市って素晴らしいとお褒めをいただいています。

それから、福祉、医療の制度が充実しているということがあります。能美市というのは健康づくりに関するランキングで、日本全国約1,700の市町村の中で第30位ということで、健康づくりが進んでいるという新たな称号をいただきました。これはいわゆる健康診断の受診率が高い、健康づくりのいろんな取り組みが盛んであるということが評価されたということでもあります。

自然景観が素晴らしい。こちらで言えば白砂青松。保育園からも白山がきれいに見えるということがあると思います。

自然災害が少ない。震度4以上の地震というのは10年前の能登沖地震以来、観測されたことがありません。それから、台風が来ると天気予報で言っている、いつの間にか白山が守ってくれているということです。

コンパクトで町会・町内会組織がしっかりしている。能美市というのは面積が約84平方キロメートル。そこに74の町会・町内会があります。74人の会長さんがいらっしやいまして、町内会長さんには町内のいろんなお話を吸い上げて、それを行政のほうに伝えていただいていますし、我々行政のほうも町内会長さんにさまざまなお願いをしています。まさに我々行政がいろんな仕事を進められるのは町内会長さんのおかげだなと、本当にいつも感謝しているところであります。

文化、各種団体の活動が盛んであるということ。恐らくタントを予約しようと思ってもなかなかとれず、こちらの会館もほぼ毎日のようにいろんな活動で使われていると思います。それだけコミュニケーションが進んでいるということでもありますし、まちづくり等に関する関心がとても高いということの裏づけだと思います。

ものづくりのまちだということです。浜街道沿いにたくさんの企業があります。それから、一部上場企業の工場群があるということで、ものづくりのまちということが能美市の魅力だと思います。

交通アクセスがいい。来年の3月には吉原釜屋に能美根上スマートインターチェンジができます。それから、タントの前の道は今、福島のところまで丁字路になっていますけれども、橋ができて最終的には金沢港まで直行できる道になります。それから、ここからです

と歩いて5分でJR能美根上駅があって、新幹線が通っている金沢駅まで25分で行ける。空港までだったら15分で行けます。それは市民にとって交通アクセスの利便性がいいということだけではなくて、やはり交流人口の拡大につながると思いますし、企業さんにとって物流の利便性が高いということにもつながっていくと思います。

特産品ということで、丸いも、それからおいしいお米、お酒もあります。九谷焼もあります。等々、能美市の魅力の一つだと思います。

観光資源、海も一つの観光資源だと思います。山口町にはキャンプ場もあります。それから、松井ベースボールミュージアム、フィッシュランド、九谷陶芸村、いしかわ動物園等々の観光資源があります。それから、先端大、寺井高校があります。各種ランキングが上位であるということが能美市の魅力だと思っています。

いいことばかりではありません。課題もあります。実は、財政状況が厳しいです。合併特例債というのをほとんど使い切っていますので、新しい大きな建物等を建てるとなるとなかなか財源が厳しいということがあります。

アセットマネジメントといいまして、老朽化した設備を直していかなければならないということがあります。能美市内には約430キロの上水道管が張りめぐらされており、それを順次直していかななくてはなりません。それから、橋や道路、これも順次直していかなければなりません。

タウンミーティングで一番皆さんから多くお寄せいただいているのが公共交通、のみバス、これを何とかしてほしいという声です。

それから、広域連携の強化ということで、能美市は人口が減っていく、そうすると、単独で行政サービスを維持することができません。小松市や川北町や白山市の隣接した地域との広域連携をしっかりと強化させていくということも必要だろうと思います

魅力を発信することをシティプロモーションという言葉で今置きかえています。具体的に、能美市の市役所本庁舎の1階のロビーに今、九谷焼が並んでいます。そのうち能美市の特産品や、世界に通用するような工場の製品も置きたいと思っています。それから、生け花展や書道展をして、多くの市民の方に来てもらい、能美市の魅力をここでも再発見していただきたいと思っていますし、市役所には県外から多くのVIPの方もいらっしゃいます。そんな方にも見ていただきたいと思っています。

以上が能美市の魅力を発信するということであり、私本人もトップセールスということで、いろんなところで能美市の魅力を発信していきたいなと思っています。

ただ、そのほかにも皆さんがお感じになっているような魅力もあると思います。

今、「広報能美」に各町内会長さんに出演していただいています。これは各町内会長さんの目からご自身の町を見て、それをPRしていただきたいということで、企画を始めました。

能美市には74の町会・町内会がありまして、ただ1回に3つのところしか出せないのも、最後の方が出るまで3年かかってしまいます。ちょっと時間がかかりますけれども、必ず皆さんに出ていただいて魅力の発信をしていただきたいと思いますと思っています。

【司会】

それでは、“井出市長と語ろう「10年後の未来」”をテーマに皆様からご提案、ご意見を頂戴してまいりたいと思います。

① 高齢者福祉の充実について

【司会】

最初のテーマは、高齢者福祉の充実についてです。

【吉原町民】

私は吉原町ということで、根上地区の端っこ、当然能美市の端っこ、そこにいる悩みということで自分の身近なテーマ、高齢者福祉の充実ということで選びました。

車社会、ネット社会では、別に車でどこでも飛んで行くことができるわけです。今、ネットでいろいろ情報も入手できるし、手続もできるという便利な状態になっています。それに伴って、また、能美市の合併もあり生活圏が拡大化して行って、施設の統合化、業務の合理化が実際にされているわけです。

自分は現状ではあちこち車で飛び回ることもできるし不便さは感じてないですが、10年後を考えたときに、車の運転ができない、あるいは寝たきりになるなどいろんなケースが考えられると思います。そういったところを考えた場合に、高齢者の課題についてちょっと提案させていただきます。

まず、高齢者というのは交通弱者、ネット弱者です。ネットは恐らく使えないと思います。高齢者や障害者にとって車での移動は困難になります。能美市役所や施設、病院、買い物に行くことはやはり移動が困難ということで不便になると思います。

それから、地域の生活環境の格差が広がってきているのではないかと思います。これは私がちょっと感じていることですが、交流がなくて財源が乏しい町内ではやはり、当然か

もしもありませんけれども、インフラ、ライフラインが立ちおくれます。

それから、遠隔とか過疎について、吉原も高齢化、過疎化しつつあります。交通などのハンディが大きいといった地域による格差があるのではないかと思います。

それから、核家族化です。これがどんどん進んでいます。やはり遠くの親類よりも近くの他人という関係はこれからますます重要になってくるのではないかと思います。

そういうことで、超高齢化、核家族化について私の改善策ということで3つほど挙げます。特に高齢者に絞って、若い人については先ほどから市長が言われているように能美市はいろんな面で充実して、住みやすくなっていますが、高齢者に対しても考えてほしいなと思います。

まず、役所の手続や行政指導、こういったものが高齢者にとっても便利になるように、高齢者のための臨時的窓口のようなものを、町内の公民館で開いてもらえたら、あまり動けないお年寄りにもいいのではないかと思います。悩み相談や各種イベントもいいと思います。

それから、生活圏の基本的な縮小化ということで、今、拡大化して、大型商店などにみんな行くようになっていますが、やはり高齢者に対して、地元商店やコンビニ、宅配便などで買い物支援を、これは一つの町と、あと地元商店や民間機関とタイアップした形で、そのような仕組みを市の協力を得てしていただきたいなと思います。それから、牛乳、新聞配達、JAなどで社会福祉活動や防犯活動などをしていただければいいかなと思います。

それから3番目は、世代間交流というのはだんだん少なくなってきました。そういうことで、町内の公民館を中心にコミュニティ活動を活性化するために、市が指導、支援をしていただければいいのではないかと思います。

以上の3つを提案させていただきました。

【井出市長】

恐らく吉原町さんは一番端っこだとおっしゃいましたが、中心部でも同じような悩みを抱えていらっしゃる場所もあると思います。

まず、市役所の手続等のことですが、どういった内容の手続きを市役所でされるかということによって違うのですが、例えばコンビニエンスストアで今、マイナンバーカードを持っていれば住民票の写しや印鑑登録証明書などを受け取ることができます。吉原町の近所にもコンビニがありますので、ぜひそちらをご利用していただければなと思います。

それから、お困り事の相談ということになりますと、高齢者支援センター、こちらのほ

うでご相談に乗りますし、基本的には24時間体制をとっていますので、一度ご利用してみただければなと思います。

それから、買い物支援ですけれども、市内には電話をかけてお願いをすれば配達をしていただけるそんなお店もあります。今、商工会でそういったお店をまとめて見られるような冊子をつくっておられまして、また活用していただければなと思います。それからご近所にあるコンビニエンスストアでは、事前に登録した人を対象に宅配サービスを行っているそうです。そのコンビニエンスストアでは日本全国やっているそうです。私も知らなかったのですが、問い合わせをしてみただければなと思います。

それから、公民館活動の件です。いろんな地区においてお助け隊を結成されたり、いきサロンや地域カフェなどの取り組みがあったり、市でも出前講座がありいろんなプログラムを用意したりしています。例えば高齢者対象のことでしたら、先ほど申し上げた高齢者支援センターにお問い合わせいただき、また、タントの中にある生涯学習課などそれぞれの部署においていろんなことをやっています。もし、どんなことがあるのかわからなければ、能美市の代表電話にお問い合わせをいただければ、どこに聞いていただければいいですよということをしっかり対応しますので、また吉原町の皆さんの活性化につなげていただければなと思います。

【吉原町民】

ちょっとこの中で説明不足というか、いろんな悩み事や手続の窓口は確かに市の中では充実していると思います。ただ、そこへ行くまでの、のみバスや交通機関を利用して、そこへ行くことがこれから大変になるのではないかと思います。

そういったことで、そこへ行くのではなく、来ていただければいいかなという提案です。

【井出市長】

例えば、人だけがそちらにお伺いをしてできる手続と、機械を持って行ってやらなければならない手続、それはパソコンだけを持っていけばいいというわけではなくて、専用のプリンターやもっと大きなコンピュータみたいなものを持っていかなければならないということがあります。お伺いして全てができるわけではないということをご理解いただければと思います。それで皆さんの利用頻度が高いものは、我々とするともコンビニでできるということになっていますので、例えば具体的にどんな手続が必要なのか、その利用頻度が高ければ我々もそちらにお邪魔するということになるかと思いますが、具体的にこんなことをやってほしいということがあれば、またおっしゃっていただければなと思います。

【司会】

では、このほか意見ある方、お願いします。

【福島町民】

きょうは福祉の充実というテーマを、統治能力、ガバナンスと住民の主体性のバランスという視点から話をしてみたいと思います。

少し専門的な話になってしまうのですが、やはりこの問題は単に難しい問題だということでおざなりにさせてはならない問題かと思ひまして、こういう機会にあえて取り上げてみることにいたしました。

それで、ガバナンスといひましてもいろんなレベルのガバナンスがあるわけで、能美市のレベルであったり、福祉でいへば社会福祉協議会のような組織のレベルであったり、またさらに町会・町内会のガバナンスもありますが、どこが先でどこが後ということではなく、同時進行的に進むものと思ひています。しかし、社会福祉協議会の会長を首長がいたしますと、どれほど社会福祉協議会が民間の組織だといひましても市役所の組織と混同されて、住民の主体性に水を差してしまうのではないかと私は思ひています。

7月初旬に答申されましたが、行政が実施するのが第3次地域福祉計画です。それに対しまして、社会福祉協議会が中心になって行っているのが今年度いっぱいまで続く第2次地域福祉活動計画です。地域福祉計画と地域福祉活動計画は連動しますが、市民の活動には市民の主体性が担保されなければならないと私は思ひています。そういう意味でも、井出市長が社会福祉協議会の会長を兼務するのではなく、民間人に委ねた見識は評価されるべきものだと思ひています。

社会福祉協議会の会長に民間人が立てば、それで福祉の課題が円滑に解決するというわけではもちろんありません。井出市長は自身のガバナンスを強化するためには、まず市民の考えが何にあるのかということを見きわめる必要があると思ひお気持ちからタウンミーティングという機会を企画されたのだと思ひています。

おつづけ（正座）町長の森茂喜さんが各区で座談会を開いて、住民の意見に耳を傾けた話は余りにも有名な話です。井出市長は座談会を片仮名にしました。それに加えて、このタウンミーティングが若者の意見に耳を傾ける機会にもなったらもっとよかったのではないかと思ひています。

先ほど吉原町からの意見を若者が聞けば、ネット注文してドローンで配達するか、お使いロボットに配ってもらえればというようなアイデアが出るのではないかと思ひています。

高齢者はネット弱者でもあるということですが、そののところをどう克服していくかということもまた大切な視点かと思っています。

また、空のタウンバスを走らせるのではなくて、きょうはどこそこに何時に行きたいと、朝にコールセンターに伝えておくと、各要求をシミュレーションして、誰と誰をどのようなルートでピックアップするかを指示された8人乗りぐらいの無人電気自動車でも運んでもらえるようになればと思っています。

このようなことは単に夢物語ということではなしに、高齢者にとっては現実味がなく、小学生、中学生や若者にしか語れないことですし、なかなか実現できることではありません。若者こそがこれを実現させる能力を持っているのだと私は思っています。また、このような新しい発想の中にもっと現実的に将来につながるようなヒントも隠されているのではないだろうかと思っています。

各町会・町内会で子供たちと青、壮、老が相集い、生活の課題を話し合い、子供たちに発表の機会を与えられるような取り組みこそが、住民の主体性を向上させるツールになるのではないかと思っています。井出流に言えばキッズミーティングということになるのではないかと思います。子供たちだけでなく住民丸ごと話し合いの輪に加わるのが、他市町で試みられている子ども議会とは異なる、住民の主体性の向上を目指し、福祉の充実を図るツールとなるのではないかと思っています。

いろいろなレベルでの統治能力の強化と住民の主体性の向上こそが将来の福祉充実にとって大切なことではないかと思えますけれども、市長のご意見をお願いいたします。

【井出市長】

たくさんご質問をいただきまして、どれから答えようかなと思っています。きょうはこれの中に社会福祉協議会の方もいらっしゃいますので、わかりやすく皆さんにお答えをできればなと思います。

まず、タウンミーティングの話が出ました。今、冒頭、町会・町内会を対象に始めていますというお話をしましたけれども、もう少ししたら並行してテーマごとのタウンミーティングもしていきたいと思っています。先日、若手農業の方や婦人団体協議会の方とさせていただきました。今後、文化団体の方とタウンミーティングをする予定にしていますし、子育て世代の方ともタウンミーティングをしたいなという思いもあります。

それから、公共交通のことにしましては後から、質問をたくさんいただいていますので、そのときにご説明をしていきたいなと思います。

そして、社会福祉のことに関してのご質問が一番の中核だったのではないかなと思います。まず能美市の中で社会福祉のことをやっている中核的な役割というのはまさに社会福祉協議会、社協であります。ここというのは、旧町時代から立ち上がってきたものでありまして、合併を機にその体制づくりがはっきりしてきて今に至っているところだと思います。

私自身、社協の役割というのは行政の補完的な立場だと思っています。例えば市の中で何か新しいものを建てるという場合には、設計は設計の専門業者をお願いをしますし、建設は建設業者をお願いをする。やはり福祉という問題も市の職員だけで全部できないわけでございますので、社会福祉協議会といった組織があるのだと思っています。

おかげさまで能美市の社会福祉協議会というか社会福祉の取り組みが、市外から本当に高い評価をいただいているところでもあります。どんな点で高い評価をいただいているのかなということをお聞きすると、市内にある74の町会・町内会全てに地域福祉委員会が設置されている。まさに住民のお声をしっかりと行政に届けるという仕組みができ上がっている。それから、「我が事・丸ごと」の地域づくり推進事業というのがスタートしまして、地域の方々のお声をしっかりと吸い上げる、そんな仕組みができ上がっているということが高い評価をいただいているところだと思います。

そして、実際に執行の決定するのは理事会であり、それを決議するのは評議員会です。その評議員会の中には現在、能美市の職員が2人、理事会にも市の職員が1人入っている。そういう意味では（経営組織の）ガバナンスがある程度整っているのではないかなと思っています。

そして最後に、市長はその福祉をどういうふうに進めていくのかという問い合わせもいただきました。

私からすれば2つありまして、今、第3次地域福祉計画の中にも書いてある自助、互助、共助、それから公助、それぞれの分野の取り組みをしっかりとさせていって、そして4つをきれいに回していく。それがこの福祉を進めていく最も大切なポイントだと思います。

それからもう一つは、私のみならず市の職員が積極的に福祉のいろんな取り組みに出かけていくこと、春まちぼかぼかプロジェクトや、先日開催した健康会議など、福祉のいろんな会議が毎日のようにあります。そこに市の職員も出かけていって、直接そういう声も聞き、そして市民の皆さんがその会議に出られたときにどんな感想を持たれたかというこ

とを、やっぱり自分がそこで経験をやって、それを行政に生かしていくということが大切だと思っています。

私が就任したときに、市の職員さんには私は外に出ていくよ、市の職員の皆さんも、ぜひこの市役所にとどまらずどんどん出ていってくださいよということもお願いをして、きょうのこのタウンミーティングにも何人か参加させていただいているところです。そうやって市民のお声をいかにしてこの行政に反映させていくかということが私は一番大事なポイントなのではないかと思っていますので、そんなところを進めていきたいと思っています。

【福島町民】

多分こういうふうに社会福祉協議会を大勢の中でどうあるべきかという議論を今までそれほどこなかったと思います。ですから、どうしても市の一つの部局みたいな感じで捉えている人が多いのではないかと思います。

やはり明確に社会福祉協議会の理事会も運営について責任をしっかりとっていくということが言われるようになってきていますので、社会福祉協議会として、市がそれぞれ出かけていっているように地域に出かけていって、ちゃんと主体的に取り組んでいきましょうねという呼びかけをしないと、なかなか福祉の充実ということが近づいてこないのではないかなと思って、きょう、あえて少しややこしい話を持ち出しました。どうもありがとうございます。

② 公共交通の充実について

【司会】

次のテーマは、公共交通の充実についてです。ご意見ある方、挙手お願いします。

【下ノ江町民】

私どもが今回、このタウンミーティングでちょっと言いたいなと思ったことは公共交通の充実についてです。他町にも関係することは多々ありますが、どこのミーティングでものみバスの話がたくさん出たよと市長も先ほど言われました。私もそうです。

実は、これは本当に具体的にお話しします。我が下ノ江町は1日3便です。その時間帯は8時59分、11時40分、それから3時11分に下ノ江の停車場にバスが来ます。ところが、80歳とかそういう高齢の方が能美市立病院へ行きたいとなると、この3つの時間のうち朝の8時59分しか病院が対応できない。昼乗っていくと昼になる。そして、3時11分だとも

う終わる。そうすると、バスはあるけど病院まで乗っていくとしたら、3便のうち朝の早い時間だけになります。これが現実です。これを何とかしてくれないか。恐らくこの町内の皆さんもそうだと思います。のみバスで市立病院へ行くお年寄りを何とかしてやってほしい、そんなお願いです。

【井出市長】

のみバス、何とかしてくれという話をもう本当にたくさんいただきます。ちょっと総合的なお話をさせていただきたいと思います。まず、のみバスをこれまで能美市は何年か運営させていただいているわけですが、実はこのダイヤ、ルートは、市が勝手に決めているわけではなくて、今までも何回かアンケートさせていただいたり、それから実際にダイヤ等が決まった後に市の職員がそのバスに乗って、乗っていらっしゃる人から話を聞いたりして、それで今のこのルートになっているわけです。

今のお話で、利便性が悪いから乗らないということもあると思いますが、実際の利用者数というのは本当に少ないです。実は採算性もとれていないということでありまして、さあ、どうしようかなというところが正直な思いです。

きょう、結論めいた話にはできないですが、もう一回、こののみバスに関しましては皆さんから直接いろんなご意見を聞いて、それでダイヤ、それからルートの見直しをしていかなければならないと思っています。ただ、今、のみバスは6台あるのですが、6台のうち3台が連携バスといいまして根上、寺井、辰口を通っているバスです。残りの3台がそれぞれ根上地区だけの巡回バス、寺井だけの巡回バス、辰口だけの巡回バスということです。恐らくこの6台だけでは市民の皆さんのご要望にはお応えできないのではないかという思いもありまして、それぞれの皆さんの思いを何か実現するような別の手段も考えていかなければならないと思っています。

ただ、そうなると料金がどうしても高くなってしまいます。それを安価にするということになりますと、結局、ほかのいろんな行政サービスに影響を及ぼしてきてしまうので、そうなると全額とは言いませんけれども、やはりそれなりの負担をしていただかないと個人の皆さんのそういった思いに応えていけないのではないかなと思っています。

いずれにしても、能美市で、ほかの市町さんがどんなことをやっているのか、それからそれに対してどれくらいの経費がかかるのかという検証を始めておりまして、また改めて皆さんにご相談をさせていただくそんな機会を設けたいなと思っていますので、もう

しばらくお時間を頂戴いたしますようよろしくお願いいたします。

【司会】

では、このほかにこのテーマについてご意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。

【浜開発町民】

のみバスの件ですが、運転手の安全教育というのは何か市のほうでされていますか。それとも完全に業者任せですか。

なぜかといいますと、先日、私、のみバスと十字路で対面しました。私の車には高齢者マークが張ってあります。多分、ばかにされたのかなと思うのですが、右折でさっと思いで行っしまいました。公共交通機関の運転手がそういう運転をされるのは、会社にそれを教えるか能美市が運転教育をするかどちらかにしていただかないと、今まで多分事故はないと思うのですが、今後、事故は起きてくると思います。通常なら直進が優先で、直進が行った後にのみバスが右折していくべきです。でも、私の車には高齢者マークが張ってあって、こいつはスタートが遅いだろうと思われたのかさっと思いで右に曲がって行きました。だから、こういう運転をされていくと事故がふえてくるのではないかと思います

【井出市長】

そうしたら、ちょっと運転教育の件は、私、今把握してないので、またどういった状況なのかこちらのほうで把握して、それからどんな教育をしているのか、それからもし教育が足りないのであればどういう改善をしていくかということ、こちらできちんと検証してお答えするようにします。

③ 観光、市のブランド化について

【司会】

次のテーマは、観光、市のブランド化についてです。ご意見ある方、挙手をお願いいたします。

【大成町民】

特に大成町内会の会長ということでもありますし、その辺からも提案させていただきます。JR能美根上駅をいわゆる能美市の玄関として捉えています。その駅の周辺の活性化ということで取り組んでまいりました。平成27年度に市の協力のもと「駅の利用を考える」をテーマとしたe k i・カツのイベントを開催しまして、その中のシンポジウムでは高校

生から、「車を運転できる人にとっては能美市の住みよきランクは3位かもしれないが、車を運転できない人はそうは思わない」という交通弱者としての意見が出されました。今後の駅活用の方向性を示唆されたような一面もありました。

現在の駅環境は高校生の利用が圧倒的に多く、待合室がないため、震えながら駅の階段、通路で家族の迎えの時間を待っているという姿が多く見られるのが実情です。それから、私もいろいろ保護者の方からも聞いています。

まず第1として、駅に待合室の設置を希望します。それから、能美市には先端科学技術大学院大学、いしかわ動物園、辰口温泉、九谷陶芸村、手取フィッシュランド、松井秀喜ベースボールミュージアム、全国に誇る有名企業等があります。それらを観光や市のブランドとして捉え、それを結ぶ公共交通環境、景観、利便性を考慮していただきたいと思えます。

第2に、駅からのアクセスの充実、のみバスの増発することについて、先ほども出ていましたが、お願いしたいと思えます。

それから第3に、駅の裏、西口にも駐車場の造成をしていただきたい。実際、前の駐車場は満杯です。

第4に、駅をおりたときの駅前通りの景観対策ということで、皆さんご存じのとおり、駅前の景観というと空き家が目につきます。その辺の景観対策もよろしくお願ひします。

何かと新幹線特需に期待は高まっています。駅前周辺環境が少しは変わり、インバウンド、外国人を対象とした旅館、飲食業も7月1日にオープンしています。私たちも地域住民の利用を促進する交流の場を検討しているところです。駅前広場の朝市や骨董市、フリーマーケット、音楽祭などイベントの開催、能美根上駅が観光客等の停車駅となるよう、また能美市の来訪者の増加や移住者が地域に定住し、その交流による波及効果を期待するものです。

大成もいろいろ市とお話しして頑張っていますので、よろしくお願ひします。

【井出市長】

私もe k i・カツの一員でありましたし、このイベントの進行役の一人だったので、まさにこのときにどんなご意見があったのか、それから能美根上駅の待合室を望んでいらっしゃる方がどれくらいいるのかということは肌で感じている一人であります。

まず、何で今の駅に待合室はないのかということをお思いの方もいらっしゃると思えます。これは今、携帯電話が発達しているので、朝であればお父さんかお母さんが子供たち

を電車に乗る3分ぐらい前にぱっと連れてきて乗せることができ、帰りも電車が着く時間に合わせて迎えに来るから、駅で待つ人がそんなにいないのではないかなということづくらなかつたという話を聞いています。

でも、特に冬場になるとたくさん、特に高校生が階段のところまで張りつくようにして待っています。その実態というのは、結局、冬場になると電車の時間がおくれます。そうすると、乗ろうと思っていた電車がなかなか来ないから待っていないといけない、それからお父さん、お母さんと迎えに来る時間よりも違った時間に電車が着いたり、おくれたりするから待っている人が多いというのが実態であります。

私もその実態を見ながら、何とかそこに待合室をつくりたいなと思っています。ただ、いろんな制約がありまして、橋の上、いわゆる改札があるところにはいろんな問題があつてつくれません。そうなってくると、バスを待っているところやタクシーを待っているところに何かしらできないかなという思いで、今検討を始めています。具体的にどのようなものができるかということはこれからですが、それをつくるに当たってはぜひとも地域の皆さん、それから高校生にもたくさん利用していただきたいなという思いもありますので、e k i・カツで取り組んでいらっしゃる方に、今、こんなことで考えているといったことをまた相談しながら、この待合室に関してはご要望にお応えできるように進めていきたいと思っています。

それから、駅からのアクセスの充実ということでもあります。これはまさに能美根上駅というのは能美市の玄関口であるということになると、利用される方は2つのターゲットに分かれると思います。一つは、生活のために使われる方、もう一つは観光のために使われる方です。この生活のために使われる方にとっては、2次交通といえはのみバスであり、のみバスのほとんどがこの能美根上駅発着になっています。ですから、それを利用していただければなと思います。

もう一方の観光という面に関して、今ほどいろんな観光地を申しいただきましたけれども、ほとんどの方が車で行っていらっしゃるというのが実態です。そうしますとこの観光地をもっと有名にさせて、そして電車でも来ていただけるようにしていかなければなりません。そのためには、今の観光地をもっと磨き上げ、もっといろいろな意味で能美市の観光資源というのはすばらしいということを発信していきたいと思っています。今、観光ビジョンの見直しをしまして、その中でこの能美根上駅をどう利用していくかということ位置づけて、トータル的に考えていきたいと思っています。

それから、西口の駐車場ですけれども、今、造成しているところがあります。ちょっと私も3日前に見に行きましたが、アスファルトを敷いてあるところがあり、どうもそこが駐車場になるということを聞いています。民間の方があそこを駐車場にされるという話ですので、ちょっとそれを見守っていきたいなと思っています。

それから、駅前通りであります。宿泊施設がオープンしました。ちょっと見に行きましたけれども、すばらしいところであります。ぜひあそこが、泊まる場所だけじゃなくて、この地域の住民の方々が集うようなそんな場所にもなっていただければなと思います。

じゃ、やっぱりここをどうするかというのは、私はやっぱり e k i ・カツの皆さんの頑張りがいいと思います。やはりせっかく皆さんがこの地域を何とかしようという思いの中でお集まりになられたわけです。やはりその皆さんの意見を集約して頑張っていただければなと思いますし、そこに我々が市としていろんなご支援をさせていただくということは当然ですので、また e k i ・カツと連携してこの駅前の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

【大成町民】

ありがとうございます。要は、駅はみんなの駅なので、駅から始まるまちづくりということで、今まで以上にまたよろしくお願いします。

【司会】

では、このほかこのテーマについてご意見ありますでしょうか。

【大成町民】

e k i ・カツということで、今も駅西や駅前というそんな話が出ますが、能美根上駅のホームから日本海が見えます。白山も見えます。町内会とちょっとその話をしたことあるのですが、白山口、あるいは日本海口というように、金沢駅でも兼六園口あるいは金沢港口に変えました。能美根上駅も世界に一つしかない白山と日本海が見える駅という意味で、日本海口、それから白山口と名前を変えるということは考えられませんか。

【井出市長】

なかなかすばらしいご提案だなと思います。確かにそういう名称、いいかもしれませんね。ちょっと私が駅のおり口の名称を決定する仕組みがわかっていないので、恐らく J R 西日本（が決めるの）ではないかと思いますが、一度そんなことができるのかどうか、そういう提案ができるのかどうか調べます。

それから、私も今、直感的には白山口、日本海口がいいなどは思いましたけれども、やはり多くの市民の皆さんが利用されるとなると、その名称も皆さんにお聞きして考えていかなければならないと思いますので、今、ご要望いただいたことを、ちょっと時間をかけて調べさせていただければと思います。

④ 生涯学習の推進について

【司会】

次のテーマは、生涯学習の推進についてです。

【大成町民】

「子どもこそはおとなの父、子どもこそはいのちのふるさと」といって、あるお寺さんのカレンダーを見たらこのように書いてありました。この辺がちょっとじーンときて、生涯学習の推進ということでお願いしたいです。人口減少、市長さんも言われるように、これはどこの市町も対策に追われているという難問題であります。将来的には子供たちにふるさとのすばらしさを教えるため、体験学習を通してふるさとの魅力を習得させ、定住意識の植えつけを強く望みます。いろんな幅広い分野ですが、よろしくお願いします。

【井出市長】

これもおっしゃるとおりでして、私自身もふるさと愛の醸成に取り組んでいきたいですし、それから実際にいろんな取り組みもやっています。地域の皆様が講師になり、学校に来てもらい地域の魅力や能美市の歴史を語っていただいています。

それから、体験学習がありまして、これはそれぞれの小学校ごとに特徴を持たせておりまして、例えば浜小学校でしたら塩づくりというのをやっていたり、それから松の植樹、それから丸いもの学習、あとは工場見学に行ったりしています。そのほかにも動物園に行ってもらったり、古墳を体験してもらったりしています。本当にふるさと愛を醸成していくこの地域の魅力をしっかりと体験して勉強してもらおうということは大切だと思っていますので、これからもそういったことを充実させていきたいと思っています。逆にこんな人がある、それからこんなことも子供たちに学んでもらったらどうかというご提言があれば、ぜひまたお聞かせいただければと思います。

⑤ 学校教育の充実について

【司会】

次のテーマは、学校教育の充実についてです。このことについて、何かご意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。

【大成町民】

うちはもう中学校を卒業してしまって久しいのですが、中学校の部活動が日曜日お休みになったと聞いています。うちの子供の例をとりますと、制限された時間の中で、時間を見て、そんなに勉強していたわけではないですが、勉強するということが、そういう制限された中の時間を有効に使うということも大切なことだと思います。

学校の先生の苛酷な労働というのはよくマスコミで報道されておりまして、その点は理解しなければならないと思うのですが、子供をどう育てるかについてどのようなビジョンをお持ちか、お聞かせください。

【井出市長】

まず、クラブは土日がお休みだということに関しましてはご理解をいただいていたと思うのですが、この加賀地域全体で土日のどちらかを休みにしているということでもありまして、しばらく状況を見て、今後どうやって変えていくのかということを見きわめていきたいな思っています。

それから、学校教育をどうしていくかというお話であります。学校教育というのは、私は家庭、学校、地域、この3つがそれぞれの分野でやっていくということが大変大切だと思っています。

えてして教育というのは学校でやるべきものだという議論もありますけれども、私は家庭教育だとか地域教育が大切なのだと思います。私も小さいときに学校が終わって地域で遊んでいるときに、何か悪いことをすると誰かが叱ってくれて、そしてこんなことをしたらだめということもわかったということもあります。学校の先生が伝えることだけではなくて、やはり地域にいらっしゃる方が自分の体験を通して子供たちに伝えるということは大変大切なことであるなと思っていますので、地域の教育ということを充実させていきたいと思っています。

それから、家庭教育、お父さん、お母さんがお仕事でお忙しいとすれば、経験豊富なおじいちゃん、おばあちゃんのそばで人生というのはこんなものだよ、こんな楽しいこともあるよ、こんなことしたらだめだよということを教えてもらう。そして土曜日、日曜日の

お休みのときにできるだけご両親と一緒にいる時間をとって、人生のあり方だとか、兄弟とのつながりとか、そんなことを教えてもらうといった家庭教育も、一つの大きな柱であります。学校教育、地域教育、家庭教育の三本柱を、この三本の矢を伸ばしていくということが教育を推し進めていく大切なポイントだろうと思っています。

⑥ 地域医療の推進について

【司会】

次のテーマは、地域医療の推進についてです。

【浜開発町民】

地域医療の推進についてお伺いします。不適切な食生活や運動不足、またさまざまなストレス等によって糖尿病等の生活習慣病が発生しています。その発症を予防するために、定期健診や特定保健指導によって発症の予防に取り組んでいるかと思います。保健指導の取り組みを本格的に開始してから、能美市にはどれだけの効果があったのでしょうか。

また、医療費を抑えるためには担当者は大変ご苦労されているかと思いますが、医療費はどのくらい抑制傾向にあるのでしょうか。

そしてもう一つ、現在、特に重要度の高い取り組みでは、どのような目標を設定しているのか、教えてください。

【井出市長】

これも大切なポイントの質問だろうと思います。まず、どれだけの効果があったのかということです。医療費がどれだけ削減されたかという質問に対しては後期高齢者の医療費がどれだけ下がったかということをお答えするのが一番わかりやすい数字だろうということを持ってきました。平成25年度から平成26年度にかけてお一人当たり3万4,000円の医療費が減少しています。ある程度の効果が出てきているのではないかなと思っています。

具体的に言えば、先ほど冒頭申し上げたように能美市というのは健康づくりのランキングにおいて全国約1,700の市町があるのですが、30位になりました。今ほどおっしゃっていた定期健診など受診率が本当に高くなってきています。市の職員は定期健診の結果を見て、行ったか行かないかというチェックだけではなくて、そこに要受診と書いてあるとぜひ受診に行ってくださいというお願いをしたり、行ってもらった後にデータを見て、本当によかったかどうかチェックをしたりしています。そんな取り組みがまさに皆さんを病気から防いでいる要因の一つなのだろうなと思っています。

それから、健康づくりのいろんな会議がたくさん行われています。この間も辰口福祉会館で千葉大学の先生に来ていただいて、健康づくりとは何だというお話をさせていただきました。それから能美市のお医者さんがネットワークを組んで、能美市内の医療体制はどうだというお話し合いをしていただいています。まさにその成果が、今ほど申し上げたところにつながっているのではないかと思います。

そして、今後どのような取り組みを強化していくかということですが、能美市は糖尿病の患者さんが県内でも多くて私もびっくりしているのですが、恐らくグルメの方が多いのではないかと思います。やっぱり糖尿病になるといろんな病気が発症することもありますので、糖尿病予備群を少なくするという取り組みを今後強化していきたいなと思っています。それはやっぱり食生活の指導や、運動しなさいといったことだと思います。そのあたりをさらに強化をしていきたいなという思いもありますし、それからやはりがんです。がんを防いでいくためにはがん検診を受けていただくというのが、やっぱり最もがんを防ぐ、がんにかかることは防げないのですが、早期治療にはつながるということで、がん検診の受診率を高めていくということも大変大切な取り組みだと思いますので、そのあたりも強化をしていきたいと思っています。

⑦ 人や自転車に優しい道路の整備について

【司会】

次のテーマは、人や自転車に優しい道路の整備についてです。このテーマについて、ご意見ある方、挙手をお願いします。

【高坂町民】

町内の苦情は町内会長へ来ます。町内会長は現状を把握し、要望書を作成し、市の担当課に提出します。市からの返答は来ますが、ほとんどの場合、予算の都合上で来年度にしてほしいという返事が一般的です。実施に至るまで何度も打ち合わせ等も必要な場合もありますし、時間がかかるのがとにかく一般的です。

私が提案したいのは、予防保全の考え方です。市の職員の方は専門家です。小まめに市内を巡回すれば、どの箇所が近い将来、修理、補修が必要であるとわかるはずですが、壊れてから修理するより、事前に修理すれば、コスト、安全性、事務手続も簡単になると思います。口で言うことはたやすいことですが、住みやすい能美市を実践するには、私たちも含めそこで働く人の意識改革が必要であると考えます。市の10年後を見据え、限られた予

算の中、予防の視点で考えることも必要じゃないでしょうか。安全・安心なるまちになるようお願いします。

【井出市長】

道路ということですか。

【高坂町民】

道路もありますし、極端に言えば防災の視点からとかいろいろありますが、今回はとにかく道路で提案します。

【井出市長】

それもおっしゃるとおりでありまして、大変いろんなところの道路が傷んでいますし、それを傷む前に直せないかというご提言だろうと思います。

まず、能美市の職員も一応パトロールをしております、傷んでいるところ、それから将来傷みそうなどころというのは把握をしているところであります。限られた予算というところがキーワードでして、どうしても傷んだところから先に直さないと、やはりそれは市民の皆さんに迷惑をかけてしまいます。やっぱり通れなくなってしまうといろんな支障が出てきます。ですから、傷んでいるところから直していくということをしていかないと、どうしても追いついていけないという現状です。

ただ、遅いよと言われてしまうと、本当にそれに関してはごめんなさい、申しわけありませんということしか言えないのですが、現在のところは皆様方からご要望をいただいたところで、特に傷みが激しいところや、やはりそこを直しておかないと住民の皆さんや企業の皆さんに大きく支障を及ぼしてしまうと思われるところを順番に直していっています。

そんなこと言っても、私が言ったところは直してもらえないと言われているかもしれませんが、その辺は時間がかかるかもしれませんが、また市の職員のほうに言っていたかなくてはならないところであります。

また、道路を直すのに、どうしても町内の皆さんにご負担をおかけする場所もあるわけです。そうなってきますと、町内会長、生産組合の皆さんとも相談をしていかないと道路も直せないということもありますので、どうしても時間もかかってしまうということも何かご理解をいただけないかなと思います。

⑧ 農業の振興について

【司会】

次のテーマは、農業の振興についてです。このことについて、ご意見ある方、お願いします。

【吉原町民】

私は、市の特産物の丸いもをつくっていますが、ご多分に漏れず高齢化により作付面積や生産者の数が年々減少しているのが実情です。吉原町でも以前は14名の生産者がいたわけですが、ことしは3名、来年には2名になるという感じであります。

J Aや小松加賀農林で、同時畝立て機やマルチ栽培の普及などいろいろやっていますが、なかなか重労働であり手作業が多いので後継者が育ってきません。

そして、一昨年にG I制度、地理的表示保護制度、簡単に言うと丸いもを知的財産として国が保障、保護するという制度ですが、このまま減少すると能美市の特産物と言われなくなると思います。

それで、2カ月ほど前に新聞で市の対応がちょっと出ていますけど、再度、市長の口から今後の何かいい対策があればお聞かせ願います。

【井出市長】

丸いもの振興に関しては、私もこの水稻の転作が進められる中、新たな柱をつくっていく必要があると思っていまして、その中核を示すのが、私はやっぱり加賀丸いもだと思っています。

丸いもの振興を、生産と販売というこの2つに分けたとして、【吉原町民】さんがおっしゃるのは生産、製造のほうを何とかしてほしいというお話だと思います。

この生産に関しては、能美市ではつくっていただいたものに対する補助金を出しております。ほかの生産品目というのは10アール当たり1万2,000円ですが、丸いもに関しては上乗せして1万5,000円です。そういった魅力をぜひフル活用して作付面積を広げていただけないかなと思っています。

それから、新しく丸いもをつくっていただく方にも助成金を出す、あとは県の農業試験場といろいろタイアップをして生産性の向上や歩留まりの向上、これを今以上に協力を要請して進めていきたいなと思っています。

それから、担い手不足の一つとして、丸いも体験事業をしていただいています。そんな中で、こんなつくりがいがあるものであればやってみたいなど、本当に1人でも2人でも

担っていただけるように、我々としてもそんな事業をもっと展開していかなければと思っています。

それから、販売のほうというのはG Iにも登録されました。やっぱりこのG Iという魅力をもう少し推し進めることができないかなと思います。

それから、当然ながらトップセールス、私としてもこの丸いもの販売にもいろんな面で取り組んでいきたいなと思います。それから6次産業化ということで、付加価値を高めていくとこともあわせてやっていきたいな思っています。

いずれにしても、丸いものは能美市の農産物のまさに特産品だと思いますので、またいろいろと教えていただきながら、皆さんにもっとつくっていただけるように取り組んでいきたいと思います。

⑨ その他

【司会】

そのほかご提案、ご意見ある方、挙手お願いします。

【下ノ江町民】

私、現在、民生児童委員を行っていますので、その方向のことをお聞きしたいと思えます。

下ノ江町では、前回、今回と民生委員の選考を行いました。前回、今回と町内会を回りましたが、なり手がいないということで現在、町内会長が順送りでなっています。次の町内会長を選出するときに、その町内会長になった場合、民生児童委員が自動的に来るといふ悪いうわさというか、悪のスパイラルみたいものができつつあります。こういうこと言ったらちょっと無理押しになるのですが、公務員をやめられた方は町内のことなどいろんなことを知っていると思うのですが、なかなか引き受けていただけません。いろんな事情もあるのですが、できれば引き受けてほしいということ、無理押しではないですが、できれば市からちょっとひとこと言ってもらえれば、またこちらからも強く言いやすいです。それがまず1点です。

そのほかに、やる気のある方もいるのですが、市の総会や社協の研修会などの行事が平日にあります。その人たちは会社勤めしていますから、ボランティアですし、休んでまで行くことができません。できれば土曜日、日曜日、祝日に変更することはできないのかなと思います。

それともう1点、下ノ江町の本町には福祉見守りあんしんマップ対象者が34名います。それと、70歳以上の方が96名います。今後、特にひとり暮らしの方がふえていくと思います。特に現在、下ノ江町は（対象者が）ほとんど女性の方です。福祉推進員は私も前回も男性の方で、いろいろ買い物などお手伝いしたいのですが、なかなか意思の疎通ができません。そういうことで、できれば（福祉推進員は）女性の方がいいなと思っています。ところが、なかなか受けていただけない。そういう現実があるということです。

今後、そういう人がだんだんふえますから、市も今後10年と言っていられないと思います。3年内ぐらいに何とかしないと、だんだん大変なことになるのではないかと思います。できれば、そういう案があれば伝えてほしいなと思います。

【井出市長】

私も悩んでいます。本当に民生委員・児童委員はなり手がなくて、本当に皆さんにご心労をおかけしていると思っています。

民生児童委員さんの役員の方がちよくちよく市役所にお越しになっているのでいろんなお話をさせていただいています。私から「いつも本当に大変でご苦勞をおかけしております」という話をする、その方から「市長、そんなこと言わないでください。私らはやりがいを持ってやっています。民生児童委員は大変って市長が言うと、またなり手がなくなるので、そう言わないでください」と、「そうですか。それなら、私はそういったことを今から口を慎みます。こんなやりがいがある仕事はありません。ぜひ皆さん、やりましょうと言います」というお話をすると「ぜひそう言ってください」とお願いされています。そんな状況の中で、ただ、なっただく方にできるだけご負担をおかけしないように、例えばサポートできるような体制を市のほうで整えていくしかないと思います。

実際に町内会長さんにその任をお願いしているということも大変申しわけないなという思いもあるので、一度、毎月町会・町内会長さんの役員会などをやっていますので、そんなことを一度皆さんで話し合うような場を持ってみたいなと思います。そんなことで、いかがでしょうか。

【下ノ江町民】

これは急に言っても、ある程度前から聞いていますのでしようがないかなと思っています。ただ、私も自分事ですが2月で会社やめました。というのは、民生委員で月に最低五、六回出席しないといけないからです。会社はそこまで休ませてくれませんでした。こういうことを言っただがるとなおさら悪くなると思いますが、現実を知らないと私みたいにな

って初めてひどい目に遭う人がいます。そういうことをやっぱりわかってほしいなと思います。

【井出市長】

会議を休日に、これちょっと一回検討してみます。

【下ノ江町民】

それか夕方とか午後7時ごろ開催するなど、そういう方法をできないかと思います。

【井出市長】

大勢の方が出席されますので、また皆様のご意見、一番出ていただける環境がどの時間かということ調べてみて、調整して進めていきたいと思います。どうぞ今後ともよろしくをお願いします。

【浜開発町民】

私の質問は、空き家対策についてです。予算書では空き家対策が計上されています。これまでにいろいろ調査をされていると思いますが、調査結果として空き家の数、それから撤去しなければならない家の数、それから貸してもいいという家の数、これはどれくらいでしたか。ということが1つ。

それからもう一つは、貸し付け可能な空き家について、所有者は当然家を確認に来るはずで、そこで第一印象は最も大切だと思っています。どのように考えておられるか。例えば月一、二回、窓の開閉、草刈り、クモの巣払いなど維持管理費用が必要になってくると思います。シルバー人材に委託する方法もあると思います。現在の予算でそういうことは可能でしょうか。

空き家を利用すれば市営アパートを建設、改修するより、非常に低価格で住居が確保できます。生活保護を受けているような人に低価格で貸し付けをすればどうでしょうか。また、その家賃を所有者に還元するとか、あるいは減税するとか、そういう貸付者側に有利なことがあれば、貸し付け可能な戸数をもっとふえてくるのではないかと思います。

その空き家の仲介者あるいは紹介者、こういう専門家を雇わないとなかなか仲人ではないですが、うまくいかないのではないかと思います。そういう専門家を雇って市の中に担当課を設置する。なかなかうまくいかないと思いますけれども、有能な人材を入庁させて、工場誘致をした場合の住居として活用すれば人口増を図っていけるとと思います。

これはちょっと現実かどうかわからないのですが、現在、市内の企業に勤めている方は

市内の方よりも市外の方のほうが多いと聞いています。

現在、市では空き家についてどの程度困っているのか。浜開発において、空き家はそんなにないので、何に困っているかなと思っています。能登へいけばたくさんあって、いろいろ話を聞きますけれども、この能美市において山間部もありますが、どのような問題点が出ているのか。

最後に、非常に辛辣な意見になるかもわかりませんが、28年度の当初予算と29年度の補正予算を比べますと16%、この空き家対策費は減額になっています。この空き家対策について市長は今後どう進めていかれるかということをお願いしたいと思えます。

【井出市長】

空き家対策です。本当にいろんな問題があります。まず、数値的なことから申し上げます。

今、能美市が把握している市内の空き家の戸数は433戸になっています。そのうち空き家バンクに登録されているのは12戸です。この差が何かということですが、結局、空き家バンクに登録されている方というのは、この空き家を活用してほしいという意思を示されている方ですが、その数が余りにも少ないということです。つまり、空き家になっているけれども、そこは自分として何か使いたい、今使っている、将来、何かに使う予定があるという方がどうも多いそうです。

クモの巣を取るといってお話がありましたが、そこはその所有者、管理者がいらっしゃるわけでありまして、行政とするとそこは手を出せません。どうしても管理者や所有者の方にやっていただかなくてはならないということです。例えばその12戸の中で、持ち主がどこかの不動産屋さんに登録されているのであれば、その不動産屋さんに売のためにきれいにしておくということをお願いするしかないということです。

それから、空き家というものは廉価で供給できるのではということで、いろんな活用の仕方があるのではないかというお話です。一つにはワーク・イン・レジデンスという能美市の事業があります。例えば先日、大成町に新しく宿泊施設ができました。それも一つの例だと思います。それから、空き家を活用して坪野町で今度、中国茶のお店をやられる方がいらっしゃいます。まさにそういったワーク・イン・レジデンス事業を使って、空き家を使っていてもらうことを紹介し、推し進めていきたいと思えます。

それから、移住を検討する方が、その地域に来たときに住んでみるといったことを推し

進めている自治体があります。将来的に空き家も、移住した人たちが住むようなシェアハウスのようなところで使えればなということも検討していきたいと思います。

それから、困っていることはないかという話が先でしたね。困っています。何に困っているかという、崩れそうな空き家がある地域があります。そこには所有者がいらっしゃるのですが、その所有者の方に、あなたの持っている物件は危険なので何とか処理をしてもらえませんかというお願いをしています。その所有者の方が能美市に住んでいらっしゃるなかったり、なかなか連絡がつかなかったりすることに本当に困っています。

本気度、これからどうするのかという話ですが、やはり空き家をもっとうまく活用できないか。それから、空き家を持っていらっしゃる方にいろんな活用の策を検討していただけないかということで、ほかの市町では空き家に関する条例を制定しています。能美市には今、条例がありません。この条例をつくることで申し上げたようなことを推し進められるのではないかということで、その勉強を始めているところです。ほかの市町の条例にはどんなものがあって、その条例の中身がどんなもので、その条例をつくったことによって空き家がどのような活用をされて改善されているかということは今勉強しているところです。それをやりながら、さらに空き家の活用、それから市民の皆さんの空き家に対して困っていることを改善していきたいなと思っています。

【浜開発町民】

私が聞いたところでは、その条例の関係なのかもわかりませんが、輪島ではシルバー人材を使って空き家を管理しています。本人がなかなか管理できないので、空き家になっているということもあるかなと思います。

それから、他のところでは低所得者に低価格で貸与しています。それが減税になっているか、そこまでは調べませんでしたけれども、貸すほうにもメリットがないとなかなか貸せないというのが現状かなと思いますので、その辺のメリットも含めて、何かすばらしい条例をよろしくお願いします。

【司会】

そのほかご意見ある方、いらっしゃいますでしょうか。

【福島町民】

P T Aのほうから出てきた話で、浜小学校のスクールバスの導入を検討できないかということです。どこまでの距離ということがあるかもしれませんけれども、浜小学校まで歩

くの一番端でいいますと1時間はかかるのではないかと思います。一番遠いところは吉原町、反対側は山口町だと思います。もちろん交通が危ないということですね。要するに交通安全という面もあるし、防犯という見地からも、また、朝に1人の子供に1人の親が順番に車で送り迎えすることで、当然渋滞すると思われます。以前は当然歩けばいいのではないかということだったのですが、大分状況も変わってきたということで、その辺はほかのところも考えて一応検討していただけないでしょうか。

【井出市長】

そんなご意見があるということは学校のほうからも少し聞いています。

調べましたら、浜小学校管内では通学の距離が半径3キロ以内で大体囲われています。一番遠いのは、北でいけば吉原か吉原釜屋、南でいけば山口町だと思います。

スクールバスを出せばということですが、やっぱり小学生ということであれば通学をすることで体も鍛えられ、それから一緒に通う子供たちとのコミュニケーションも図られ、そして歩くことで先ほどから申し上げているようなふるさと愛の醸成にも私はつながるのではないかと考えています。

それから、安全面ということは確かにそれもおっしゃるとおりです。本当に幸い、この浜小校下の皆さんはPTAの方ですとか地域の方が積極的に角々に立っていただいたりして、子供たちの安心、安全を見守っていただいているということで、これは本当に感謝をしています。

余談になるかもしれませんが、例えば松井選手は山口町からずっと通っていたおかげで、こうやって大リーガーになれたのかなという思いもあって、もちろん今のご時世でバスを出すということもあるかもしれませんが、今の私の考えからすると、ちょっと遠いけれども小学校のときにはやっぱり歩いて通って、それで保護者の方が少しそこで助けていただいているような現状ですので、そんなことで小学生のうちは頑張ってもらえないかなと思います。

【福島町民】

わかりました。中学校になったら自転車になりますので特に問題はないのではないかと思います。小学生のうちはどうかなという話でした。

【高坂・根上町民】

自衛隊のことです。最近、自衛隊の戦闘機が朝早く、夜遅くに飛びます。特に根上地区

においてはテレビや電話の声、時には家族の会話の声すら聞こえないくらいです。能美市ではどうお考えでしょうか。一つの対応として防音工事があります。防音工事には、外郭、一挙、新規、建具、区画改善、設備取りかえなどがあります。

現在、申請した各個人は工事によっては五、六年待ちです。私たちも高齢です。市から工事が早く進むよう働きかけてはもらえないでしょうか。

防音工事は、昭和59年までに建てられた家が対象です。平成10年ぐらいまでの見直しを能美市から働きかけてはもらえないでしょうか。

学習等供用施設がある公民館の老朽化が市内全域で見られます。高坂・根上町公民館については10年前に改修工事をしました。現在、公民館もまだ修繕しなければならない箇所が多くあります。公民館も防音の補助が受けられると思います。ぜひとも検討をよろしくお願いします。

能美市の10年後において、自衛隊とは共存共栄しなくてはなりません。今後も安全・安心のできる対応をよろしくお願いします。

【井出市長】

山口町、それから高坂町とかの基地周辺の自治体の皆さんにしかわからないようなお悩みがたくさんあるのだと思います。

実は私の家もちょうど飛行コースの下にあり、大きな飛行機や戦闘機がよく通るところです。もちろん高坂ほどではないのですが、その騒音がどんな状況かをわかっているつもりです。

今、自衛隊の共存共栄というお話もありました。まさに能美市としても10・4協定、これは昭和50年に結ばれた基地の騒音の協定です。それがきっちり守られているのかどうかということをしっかり見て、安心・安全な飛行をしてもらう。それから、10・4協定に守られた騒音で飛行してもらうということをしっかりと小松基地と防衛省に伝え、また、防音工事、あるいは地域の振興のためにいろいろとご支援していただくということをお願いしていきたいと思っています。

そして、そうは言いながら防音工事の時間がかかっているというお話でした。

これも実態を調べましたら、今、おっしゃったとおりです。これも、もう少し早くできないかといことはこれまでに何回もかけ合っています。要望しています。ただ、これは防衛費がどれだけ国から予算がつくかということによって、これが前倒しになるかならないかというところがあるようで、そうは言いながら、我々もこれだけ騒音で住民にいろいろ

な困り事もあるということを引き続き強く訴えていきたいと思っています。

それから、古く建てられたものだけじゃなくて、それ以後に建てられたものも対象にしたらどうかというお話もありました。

これも全国市長会の要望事項に入れてありますし、それから小松基地に近接する能美市周辺地域連絡協議会というのがありまして、今ほどおっしゃったその時期以後に建てられたものも対象にしてくれという要望を加えていますし、それをまた一層強めていきたいと思っています。

それから、高坂・根上町公民館の件に関しましては、担当課から高坂・根上町内会長さんのところにご要望をいただいたということで問い合わせをさせていただいて、ご相談に乗らせていただきたいなと思います。

【浜開発町民】

今の自衛隊の件ですが、防音工事はしたのですが、それでも天候の悪い日、雲が低い場合は、とてもうるさいです。だから、個人的に騒音のすごいところは4万ぐらい出して二重窓にしました。

だから、そういう場合は市が2万の半分でも、3割でもいいから（助成してもらえないでしょうか）。防衛省と半々で処置するようにして、防音工事は高いので、一部屋の分だけでもいいから飛行機の騒音のすごいところに関して二重窓のサッシを設置したらどうかと私は考えています。自分の経験上の話です。

【井出市長】

まず、本当にその騒音が定められた量よりも本当に多いのかどうなのかということとはもう一回調べます。一応10・4協定で決められている数値があり、市内で測定もしています。本当に守られていないかどうかということは一度チェックをしてみたいと思います。

それから、4万円分をというお話ですが、ご要望としてきょうは聞いておきます。それが、やれるかどうかということは……。

【浜開発町民】

開発の場合は、NHKの料金に関しては全額を取ってないといところがありますが、線引きの関係で自分の家は線引き外（対象外）と言われました。線引きの関係の調査もやり直してほしいです。

【井出市長】

ちょっと後からお名前とご住所を聞いておいて、どんな状況なのかを調べて、またお答えします。

【司会】

では、本日はたくさんの貴重なご意見をいただきました。

時間も参りましたので、ここで今回のタウンミーティングを終了したいと思います。

最後に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

本当に長い時間おつき合いをいただきまして、ありがとうございました。

冒頭申し上げたように、本当に地域によってタウンミーティングで意見交換させていただく内容が違います。辰口地区では中山間地のいろんな悩みを聞ききました。根上地区にお邪魔をすると海岸線の問題や今の飛行機の問題等々あります。

そして、きょう、たくさんの方に来ていただきましたけれども、本当は発言したかったけどなという方も多くいらっしゃると思います。

本当にこのタウンミーティングというのを大切に今からもやらせていただきたいなとも思っています。それから、こういう形式張ったところではなく、ちょっと一杯酌み交わしながら、もっとざっくばらんな話もしたいというお誘いをいただければ、嫌いではないのではせ参じます。

たまには駅から電車に乗ることもありますし、この間も1回、のみバスに乗ってみたいなと思ってのみバスに乗りましたら、乗った途端に何人かの方が「あんた市長さん、のみバスに乗るのですか。何しにきたの」と言われまして、ずっと話をしていたらあつという間に着いてしまったということもありまして、やはりそうやって現地現場で体験をして、それを通して教えていただくこともたくさんあるかと思っています。

こんな会議の場だけでなく、そんなところも行ったらどうかと教えていただいたことも、時間がある限りやっていきたいと思っています。

きょうは長い間おつき合いをいただきましたことに御礼を申し上げまして、そして改めてそんな機会をつくりましたときにはまたご出席いただくことをお願い申し上げまして、私からの挨拶とさせていただきます。きょうはどうもありがとうございました。（拍手）